

くまびょう

88号

NEWS

くまびょう
NEWS2004年
10月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター
(前 国立熊本病院)

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501代

FAX (096) 325-2519



平成16年度第1回(通算第17回)

開放型病院連絡会開催される



福田委員長の御挨拶

平成16年度第1回(通算第17回)開放型病院連絡会が9月1日にくまもと県民交流館(鶴屋東館)パレオホールにて開催されました。開始10分前より「開放型病院利用の実際」のビデオを放映し、午後6時30分より開放型病院連絡会総会を開始しました。宮崎院長が開

会挨拶を行い、本院の現状報告と登録医の先生方の日頃のご協力に対するお礼を述べ、続いて、国立病院機構熊本医療センター開放型病院運営協議会委員長の熊本市医師会長福田稔先生よりご挨拶を頂きました。福田先生は前国立熊本病院が開放型病院として発足した当初の開放型病院運営協議会委員として、紹介の方法、代理徴収など多くの課題に取り組まれた経緯を述べられた後、現在の地域医療の根本である病診連携の重要性を強調されました。

つづく全体会議は林田委員と池井が進行を担当し、まず、心臓血管外科の毛井医長が「心筋梗塞に対する幹細胞移植療法」を、放射線科の吉松医長が「外傷性脾破裂に対する脾動脈塞栓術の一例」を呈示しました。ついで清川研修部長が「臨床研修の必修化の現状」について報告しました。パネルディスカッションの舞台設定の間を利用して、池井より「紹介患者優先診療開始」と「外来駐車場の移転」についてご説明しました。

最後に「開放型病院の利用について」というテーマでパネルディスカッションを行い、森田直先生(整形外科)、和田敏先生(内科)、古賀靖人先生(精神科)、保利哲也先生(脳神経外科)、金本和久先生(歯科)より病院への要望等を発表して頂きました。厳しいご指摘もありましたが、大変参考になりました。これら

の意見は本号から5回にわけてくまびょうNEWS「パネリストの御発言」欄に掲載させていただきます。ご指摘の点を検討し、今後の改善に役立てたいと思います。またフロアから熊本市歯科医師会長の古賀明先生より、歯科診療所と当院の病診連携の重要性、その中でも障害者歯科診療の重要性についてコメントを頂きました。さらに前熊本市医師会長の豊田大徳先生より「病院内では自分たちで新病院名をどの様に言っているのか」とのご質問があり、熊本地域医療センターとの間違いを起こさないように、院長命で必ず国立病院機構熊本医療センターと、頭に国立病院機構を付けている旨をお答えしました。

続いて会場を鶴屋ホールに移し、懇親会を開催しました。まず豊田先生がご挨拶と乾杯の音頭を取られ、出席者全員で和やかに懇親の場がもたれました。日頃は自分の専門分野の先生方とお会いする事が多いのですが、この会では色々の診療科の先生方と直に意見交換を行うことが出来て非常に有益でかつ楽しい一時を過ごせました。最後に前熊本市医師会副会長の河津先生にご挨拶を頂き、懇親会を終了しました。

今回も多数の先生方にご参加頂き誠に有り難うございました。この会の成果として病病・病診連携がさらに充実することを期待しています。

(副院長 池井 聡)



パネルディスカッション風景



国立病院機構熊本医療センターへの 感謝と期待

明生病院

院長 古賀 靖人



8月の初旬、池井先生から電話をいただきました。電話にでると「くまびょうNEWS」のVOICEへの投稿依頼でした。筆不精の私は心の中で「困ったな～」と思いましたが、私共の病院は精神科単科の病院で精神科医では手にあまる合併症も多く、年間何十人もの診察をお願いしており、断われずに引き受けました。私は日頃の合併症をお願いしていること等への感謝と国立病院機構熊本医療センターへの期待について書こうと思います。

精神科病院の入院患者も高齢化が進み、合併症

が増加しています。悪性腫瘍、骨折など転院が必要な場合も多く、昨年1年間で私共の病院から、十数人の患者さんが国立病院機構熊本医療センターへ転院しました。

私共の明生病院は大窪にあり、234床の精神科病院です。国立病院機構熊本医療センターに近いこと、ベッドを持つ精神科があることなどから、どうしても国立病院機構熊本医療センターへお願いすることが多いのですが、24時間いつでも受け入れてもらい感謝しています。

転院して治療が必要な合併症をもつ精神科の患者さんで、転院がスムーズにいかないケースが全国的にみると8～9%あることが日本精神科病院協会の調査でわかっています。

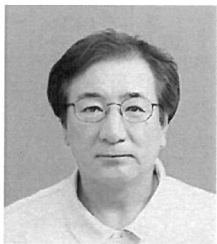
しかし熊本ではその様なケースはほとんどありません。精神科の入院ベッドをもつ国立病院機構熊本医療センターが受け入れてくれるからです。

又、精神科を含めた救急医療も積極的に行ってもらっており、日本精神科病院協会が実施している輪番制の精神科救急医療では、合併症のある精神科救急の後方病院として精神科救急医療を支えておられます。

尚、今後は臨床医の研修病院として多くの臨床医を育成され、地域医療を支えていかれることを期待していますし、現在行われている病院のリニューアルの完成を我々は楽しみに待っています。

パネリストの御発言 「国立病院機構熊本医療センター開放型病院の利用について」その1

開放型病院連絡会のパネルディスカッションでのパネリストの先生方の発表内容の要旨と病院からのご返事をお1人分ずつ5回にわけて掲載します。今後の改善に役立てたいと思います。



森田整形外科医院

森田 直 先生

森田先生から「有床の整形外科医院を開業しているが、重症患者、大きな手術を必要とする患者を紹介している。紹介した患者より、当院の整形外科外来から検査に行くときや、他の診療科の受診に行くとき、かなり離れた所まで行かなくてはならなくて、その移動

が大変苦痛であったとの訴えがあった。病院としての改善を望みたい」とのご要望を頂きました。

お答え：外来での患者様に対する配慮の一つとして、最近フロア・マネジャー（FM）を配置しました。FMは看護師長が交代あたり、外来を巡視して、困っている方、苦痛のありそうな方に声をかけ、ご要望をお聞きして、対処するようにしています。歩行がつかうような方には、FMの指示によりスタッフが車椅子をお持ちして、移動のお手伝いをするようにしました。今後さらに徹底していきたいと思います。

（副院長 池井 聡）

2004年
診療科紹介 (13)
産婦人科

特 色

当科は、婦人科悪性腫瘍の診断、治療を重点目標に診療を行っています。その他産婦人科一般疾患、良性腫瘍さらに、卵巣腫瘍茎捻転、子宮外妊娠、骨盤内炎症性疾患、卵巣出血等の救急症例が年々増加しています。新入院患者数は最近10年で2倍以上の増加があり、手術症例数も最近4年間は350例に増加しています(図1)。



三 森 寛 幸

産婦人科悪性腫瘍の診断と治療
日本産婦人科学会専門医
日本臨床細胞学会指導医
日本臨床細胞学会代議員
熊本大学非常勤講師
母体保護法指定医



永 井 隆 司

産婦人科悪性腫瘍の診断と治療
周産期管理
日本産婦人科学会専門医
母体保護法指定医



鄭 俊 朗

産婦人科一般
鏡視下手術
日本産婦人科学会専門医



福 田 潤 一 郎

産婦人科一般

診療実績

婦人科悪性腫瘍(頸癌、体癌、卵巣癌)は1974年~2003年までで、総数3,223例の症例があり(図2)、最近増加傾向の著しい子宮頸部上皮内癌では現在原則として頸部の円錐切除術で子宮温存を行っています。さらに現在、生存率向上を目的に、子宮頸部浸潤癌では症例により、根治手術前の動注化学療法(NAC)や進行癌に対しては、抗癌剤同時併用放射線療法(2002年11月より)を施行しています。また卵巣癌の化学療法では、今までのCJ(サイクロフォスファミド+カルボプラチン)にかわりTJ(タキソール+カルボプラチン)を第一選択としており、さらなる治癒率の向上を目指しています。

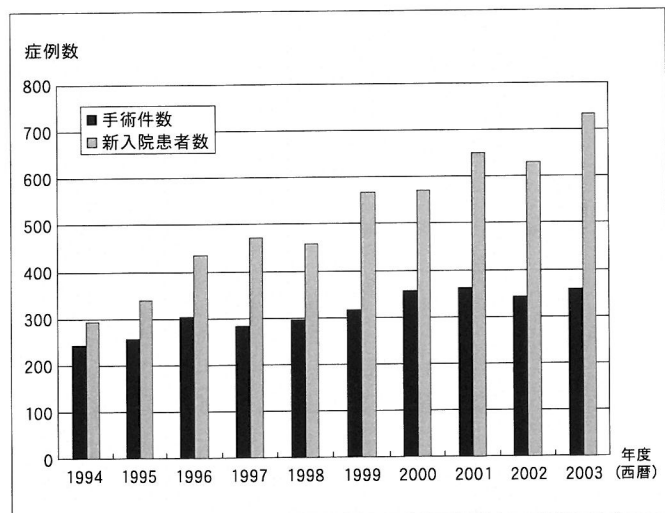


図1 最近10年間の手術件数と新入院患者数

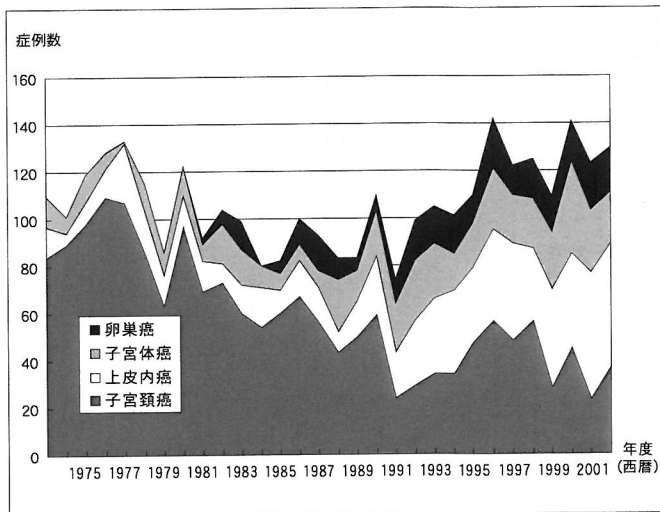


図2 婦人科悪性腫瘍推移

(国立病院機構熊本医療センター産婦人科: 3,223例)

最近のトピックス

薬剤溶出性ステント (drug eluting stent)



心臓血管センター
循環器科医長
宮尾 雄治

わが国においても、ライフスタイルの欧米化と超高齢化社会の到来により、虚血性心疾患患者は増加傾向にあります。当院でも、同疾患に対する冠動脈へのカテーテル治療は年々増加傾向にあり、本年は200例/年間のペースとなっております (図1)。

カテーテル治療において、当初はバルーンカテーテルにて冠動脈の狭窄病変を機械的に拡大する際、血管壁に解離を生じ、また動脈の弾性によりrecoilを起こし再狭窄となる問題がありました。これに対して1993年より日本でも冠動脈内のステント留置術が施行されるようになり、拡大した内腔を支持することで十分な径が得られ、冠動脈形成術の治療成績は著しく向上しました。

しかしながら、カテーテル治療部の局所の炎症反応

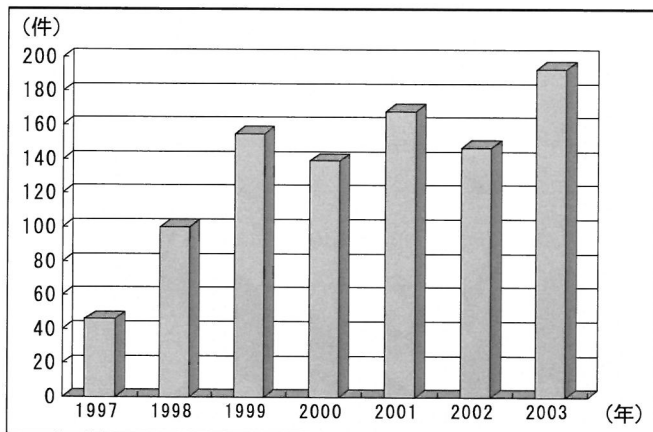


図1 当院での冠動脈カテーテル治療件数の推移

に伴うと思われる内膜の増殖反応による再狭窄 (半年で約20%前後の再狭窄率) は、残された最も重要な課題でありました。そこで血管平滑筋細胞や線維組織の増生を抑制するために、ステントに細胞増殖抑制作用を有する薬剤を徐放性に溶出するように高分子素材でコーティングしたステントが登場しました。これが薬剤溶出性ステント (drug eluting stent: DES) です (図2)。DESと従来より使用していたステントを用いたランダム化比較試験にて、DESを用いた群ではなんと再狭窄0% (従来群は26.6%) と驚く結果が報告されました。その後、より難しい病変、再狭窄率の高いと思われる病変に対して使用するトライアルが行われましたが、従来群より有意に再狭窄を減少させており、いずれも1桁 (2~8%程度) の再狭窄率でありました。日本でも保険上認可され、本年8月下旬より使用可能となりました。もちろん新規の治療手段であり、薬剤を使用することでの問題、あるいは長期的な成績は不明であること、使用病変が現在のところ限定されること、使用期限が短いこと各施設に取り置きすることが難しいことなど、いくつかの不明な点や未解決の点もあります。

しかし先に示したように多くの臨床試験の成績からも今後の治療成績の向上が充分期待されることあり、また冠動脈疾患で悩む患者さんへも福音となるものと考えます。

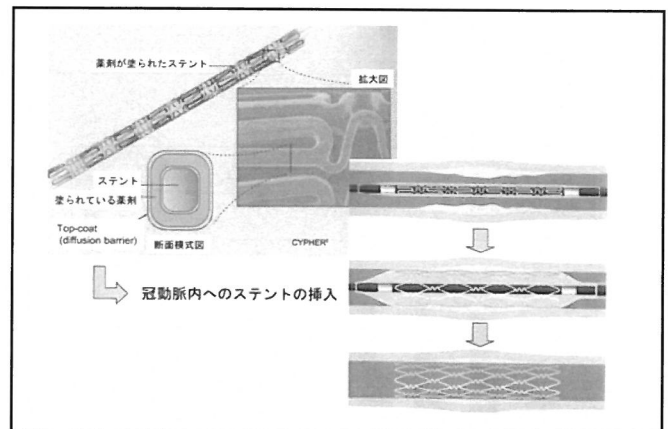


図2 薬剤溶出性ステント (DES) の構造

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~knh/>

新任職員紹介



形成外科医長

おおしま ひで お
大島 秀 男

平成16年10月1日付けで国立病院機構熊本医療センター形成外科の新規開設のため、勤務させていただくことになりました大島と申します。

平成3年新潟大学医学部卒業、同年聖マリアンナ医

科大学形成外科に入局し、大学病院、東横病院、聖隷浜松病院に勤務して参りました。大学院卒業後、Ecole Normale Superieure Paris留学、大学病院勤務を経てこの度の赴任となりました。

形成外科では損なわれた形態、異常な形態を正常な形態に修復する再建外科と正常な形態をさらに美しくする美容外科を行います。当院においては顔面外傷・骨折、熱傷、先天異常、頭頸部再建、ケロイド・瘢痕拘縮などの再建領域の形成外科を中心に自由診療も取り入れ、地域医療に貢献していく所存です。

諸先生方やスタッフの皆様には御迷惑をかけることも多いかと存じますが、御指導、御支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

形成外科診療時間案内

外来（午後）：月・火（予約のみ）・水（紹介のみ）・木・金

研 修 報 告

研修報告

聖マリアンナ医科大学での形成外科研修を終えて



皮膚科

三角 修子

このたび、平成16年7月5日から7月16日までの約2週間、聖マリアンナ医科大学の形成外科にて、研修をさせていただく機会に恵まれました。聖マリアンナ医科大学は神奈川県川崎市に位置し、広い敷地を有して、晴れた日は屋上から富士山が見えるというほど景色もよく、環境にも恵まれたところでした。

研修の目的は、手術をひとつでも多く見学し、その中からどんな小さいことでも良いので技術や考え方を学び、日常の診療に生かしたいということでした。もともと皮膚科と形成外科は扱う疾患や治療などにおいても重複するところが多いのですが、それだけに皮膚科医に形成外科的分野を要求されることも多々あります。自分の守備範囲を広げ、より多くの患者さんを診て治療することができれば、と以前から考えておりましたので今回の研修をととても楽しみにしておりました。

手術は普通毎日2～3例予定されており、疾患によって局所麻酔から全身麻酔までさまざまです。私が研修した期間は肥厚性瘢痕の切除と切除後の皮弁形成や植皮術、小児の獣皮様母斑の分割切除縫縮術が比較的多く、そのほかに睫毛内反形成術、下顎骨骨折のプレート固定術、頭部巨大腫瘍の切除術、眼瞼下垂の挙筋短縮術、各種腫瘍の切除後の皮弁形成術などの手術を見学、または実際手術に入り手伝いをさせていただいた

ものもあります。

手術では皮切部にほとんどの症例でエピネフリン加キシロカインを局注するのですが、エピネフリンは局所で一時的に血管を拡張させるため必ず5分から10分、毛細血管が収縮するのを待ち皮切を始めるといったように細かい事ですが、出血を少しでも減らすため、医学的理論に基づいて実践されておりました。

また顔面の形成術では比較的長い手術でも局所麻酔にしてあることに疑問を感じたのですが、その理由はすぐにわかりました。術中に患者さんに実際座ってもらったり、眼を開閉してもらったりして確認しながら進めていかなければならない形成外科特有の理由があったのです。局所麻酔での長い手術は患者さんの負担も大きいようでしたが、先生方の細やかな配慮があり、スムーズに行われておりました。

また、これは予想していたことですが、早くきれいに仕上がる縫合技術は見事なものでした。

手術以外にも外来、病棟の見学や手伝いをさせていただきました。外傷による創傷治療、様々な原因からの皮膚潰瘍、皮膚腫瘍の診断と治療、肥厚性瘢痕のフォローアップ、など当科で行っている診療と共通する部分が多く、根本的な考え方は変わりませんが、詳細な部分でお互いに情報交換をすることもできました。

今回の研修では聖マリアンナ医科大学の形成外科の教授を始め医局員の方々が大変親切にしてくださり、楽しく有意義な研究を過ごすことができました。

また今回研修に行く機会を与えてくださった院長先生を始め皮膚科部長の前川先生に感謝いたします。また留守中多くの方に大変お世話になりました。ありがとうございました。

研 修 報 告

研修報告

海外研修「胸腔鏡視下脊椎骨折治療セミナー・ 脊椎後方固定術セミナー」に参加して



整形外科医長
橋本 伸 朗

平成16年4月16日から4月25日まで、ドイツのムーナウ外傷センターで開催された胸腔鏡視下脊椎骨折治療セミナーとフランスのマルセイユで開催された脊椎後方固定術セミナーに参加させていただきました。

ムーナウはミュンヘンからバスで1時間ほどの小さな町で、遠くにアルプスが望める牧草地帯でした。こんなにアクセスが悪い所に外傷センターがあるのだろうかと思いたくなるほどの田舎でした。しかし、ドイツでは知る人ぞ知るといふ外傷センターだそうで、先ず驚かされたのが、425床で年間19,538件という桁違いの外傷手術を行っていることです（最初は本当に桁が間違っているのかと思いました）。年間のヘリコプターによる患者搬送も1,130件といえますから平均でも毎日3回はヘリコプターが飛んできてことになります。数字だけを見るとさぞかし戦場のような忙しい病院かと思いきや、スタッフはみんなニコニコと余裕があるのが不思議でした。初日は手術適応と手術方法についての講義でしたが、日本における手術適応とは、やや異なり、とにかく胸椎損傷があれば、全身状態が許す限り胸腔鏡視下に脊椎再建を行い、翌日から離床させるということでした。2日目は、実際の手術をライブで見学させていただきました。もう一つ驚かされたのが、このような無菌手術では、高齢者と糖尿病患者を除いては、予防的抗菌薬の投与は一切行わないという

ことでした。当科でも脊椎手術の予防的抗菌薬投与は術日のみと短縮していますが、全く投与しないというのは初めて聞きました。ムーナウではそれが常識だそうです。

現在、当科では胸腔鏡視下脊椎手術の技術を習得しておらず、従来の開胸手術で対応せざるを得ません。早期離床を何度か試みましたが、創痛を伴うため困難な状況です。最優先で習得すべき手術方法の一つであることを再認識いたしましたので、近いうちに是非再訪し訓練を受けたいと考えています。

続いて、フランスのマルセイユまで南下しました。ムーナウとは正反対のにぎやかな港町でした。ここでは、脊椎後方固定術の際、椎間板に挿入するインプラントを開発したブロンサード先生のクリニックで開催されたセミナーに参加しました。初日は、手術適応と方法についての講義、2日目は屍体を使用しての手術方法の実践トレーニング、3日目は手術のライブを見学しました。

ブロンサード先生の下には秋田大学出身の先生が1ヶ月ほどの短期研修に参加しておられましたが、その先生の話によると、ブロンサード先生は、無床クリニックを開設し、手術は数カ所の契約病院で行っているそうです。手術症例は不安定性腰椎による腰痛に適応を限って、それ以外の疾患はそれぞれの専門医に紹介されるそうです。手術の際は、自分のお気に入りの看護師さんを連れて来て、2人で和気藹々と手術をされるそうです。マルセイユではそれが常識だそうです。なんとも羨ましい限りでした。

今回は、脊椎外科に携わる医師が日本から6名参加しました。建前が優先しがちな学会とは異なり、本音でいろいろな情報を交換できたことも大変有意義なことでした。このような機会を与えていただいたことに感謝しております。ありがとうございました。



ムーナウ外傷センターにて



屍体を使っての実習風景

■ 研修のご案内 ■

第75回 最新医学の知識講座 (無料)

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶平成16年10月6日(水) 19:00~21:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

肝臓病治療の最前線

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線263 096-353-3515(直通)

座長 国立病院機構熊本医療センター副院長 池井 聰
熊本大学大学院医学薬学研究部消化器内科学教授 佐々木 裕

第43回 シンポジウム (無料)

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶平成16年10月9日(土) 15:00~18:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

医療の将来—医療安全—

1. 病院長の立場から
2. 医療安全管理学の立場から
3. 専任リスクマネージャーの立場から
4. 行政の立場から

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線263 096-353-3515(直通)

座長 前国立療養所老岐病院院長 木村 圭志
武蔵野赤十字病院院長 三宅 祥三
横浜市立大学大学院医学研究科医療安全管理学教授 橋本 勉生
国立病院機構熊本医療センター専任リスクマネージャー 辻 里美
厚生労働省医政局総務課医療安全推進室医療安全対策専門官 永田 充生

第186回 初期治療講座 (会員制)

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶平成16年10月16日(土) 15:00~18:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

薬疹

1. 薬疹症例
2. 薬疹の診断法
3. 最近の薬疹の動向

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費20,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される方は1回会費5,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線263 096-353-3515(直通)

座長 熊本市医師会 工藤昌一郎
国立病院機構熊本医療センター皮膚科 横山眞爲子
国立病院機構熊本医療センター皮膚科部長 前川 嘉洋
福田皮膚科クリニック院長 福田 英三

第69回 月曜会 (無料)

(内科症例検討会)

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成16年10月18日(月) 19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 胸部X線写真供覧
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例呈示「臍頭および胃切除後14年目に発症した骨軟化症の1例」
4. ミニレクチャー「日常よく見る血液凝固異常」

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター呼吸器科医長 森松 嘉孝

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科 市原ゆかり

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液膠原病内科部長 清川 哲志

5. その他

日頃、ご疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL 096-353-6501(代表) FAX 096-325-2519

第53回 特別講演 (無料)

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶平成16年10月20日(水) 19:00~21:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

循環器病診療のパラダイムシフト

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線263 096-353-3515(直通)

座長 熊本大学大学院医学薬学研究部循環器病態学教授 小川 久雄
国立循環器病センター病院長 友池 仁暢

第76回 総合症例検討会 (CPC)

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶平成16年10月27日(水) 19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

テーマ：歯肉出血で発症した原発不明癌

(症例 67歳 男性/主訴 歯肉出血)

臨床担当：国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液膠原病内科 稲田 知久

病理担当：国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理室長 村山 寿彦

「平成15年3月1日歯肉出血のため近くの歯科を受診。歯の破折を認めたため抜歯されたが、その後も出血を認め当院紹介。採血で血小板2.8万と減少を認め、精査目的に入院となる。入院時の血液像で、Leucoerythroblastosisおよび破砕赤血球あり。凝固検査から、DICの合併も判明した。骨髓検査では、末梢血の混入のため詳細は不明であったが接着性の細胞あり、骨髓腫瘍を疑った。画像では腹腔内のリンパ節腫脹、左水腎を認めた。各種腫瘍マーカーは陰性、出血傾向強く、連日のMAP・血小板の輸血を行ったが口腔出血、下血は持続した。」

*臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。希少疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。活発なディスカッションをお願い致します。お気軽に御参加下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線263 096-353-3515(直通)

平成16年 研修日程表 10月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

10月	研修ホール	会議室	ほか
1日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手臨 8:00 皮膚科症例検討会 C 17~18 救急部カンファレンス C
2日(土)	14:00~16:00 第177回 滅菌消毒法講座《会員制》 「物品管理」 熊本中央病院健診センター所長 研究発表	後藤 俱子	10~12 楽しく学ぶ基礎看護技術講座(1G) 学校 14~16 楽しく学ぶ基礎看護技術講座(2G) 学校
4日(月)		17:00~18:00 病理・細胞診検討会(図)	8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
5日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
6日(水)	19:00~21:00 第75回 最新医学の知識講座 [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 「肝臓病治療の最前線」 座長 国立病院機構熊本医療センター副院長 池井 聡 熊本大学大学院医学薬学研究所消化器内科学教授 佐々木 裕	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
7日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
8日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手臨 8:00 皮膚科症例検討会 C 17~18 救急部カンファレンス C
9日(土)	15:00~18:00 第43回 シンポジウム [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 「医療の将来 - 医療安全 -」 座長 前国立療養所屯田病院長 木村 圭志 1. 病院長の立場から 武蔵野赤十字病院長 三宅 祥三 2. 医療安全管理学の立場から 横浜市立大学大学院医学研究科 医療安全管理学教授 橋本 迪生 3. 専任リスクマネージャーの立場から 国立病院機構熊本医療センター 専任リスクマネージャー 辻 里美 4. 行政の立場から 厚生労働省医政局総務課医療安全推進室医療安全対策専門官 永田 充生		
12日(火)	18:30~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
13日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
14日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
15日(金)		18:30~20:30 熊本地区核医学技術懇話会	8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手臨 8:00 皮膚科症例検討会 C 17~18 救急部カンファレンス C
16日(土)	15:00~18:00 第186回 初期治療講座《会員制》 [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 「薬疹」 座長 熊本市医師会 工藤昌一郎 1. 薬疹症例 国立病院機構熊本医療センター皮膚科 横山真為子 2. 薬疹の診断法 国立病院機構熊本医療センター皮膚科部長 前川 嘉洋 3. 最近の薬疹の動向 福田皮膚科クリニック院長 福田 英三		
18日(月)	19:00~20:30 第69回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]	17:00~18:00 病理・細胞診検討会(図)	8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
19日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
20日(水)	13:00~17:00 糖尿病教室 19:00~21:00 第53回 特別講演 [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 「循環器病診療のパラダイムシフト」 座長 熊本大学大学院医学薬学研究所循環器病態学教授 小川 久雄 国立循環器病センター病院長 友池 仁暢	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	12~13 糖尿病教室 研食 17:00 消化器疾患カンファレンス C
21日(木)	19:30~21:30 第38回 有病者歯科医療講演会 座長 熊本市歯科医師会前会長 関 剛一 「腎疾患患者への歯科治療時の留意点」 熊本市立熊本市民病院腎臓科部長 中村 亨道		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
22日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手臨 8:00 皮膚科症例検討会 C 17~18 救急部カンファレンス C
23日(土)	13:00~18:00 第17回 医療マネジメント学会クリティカルパス実践セミナー [1日目]		
24日(日)	8:50~14:30 第17回 医療マネジメント学会クリティカルパス実践セミナー [2日目]		
25日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
26日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
27日(水)	19:00~20:30 第76回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 「歯肉出血で発症した原発不明癌」	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
28日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18:30 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会 研4 F
29日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手臨 8:00 皮膚科症例検討会 C 17~18 救急部カンファレンス C

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手術室控室 臨 臨床研究部会議室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 学校 看護学校 研食 研修棟食堂 研4 F 研修棟4階
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)